

研究ノート

# 廃棄物焼却におけるストロンチウムの挙動と溶出特性 (第三報)

由井 和子<sup>1\*</sup>、倉持 秀敏<sup>1</sup>、大迫 政浩<sup>1</sup>

【要約】 2011年3月の福島第一原子力発電所の事故以降、我々は廃棄物の焼却および溶融処理における放射性セシウム ( $^{134}\text{Cs}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ ) と放射性ストロンチウム ( $^{90}\text{Sr}$ ) の挙動を調査してきた。本報告では既報の補足として、除染廃棄物や災害廃棄物の焼却主灰と飛灰の $^{90}\text{Sr}$ の含有量および、焼却飛灰からの $^{90}\text{Sr}$ の溶出率を測定して、それぞれを安定同位体(安定Sr)の値と比較した。災害廃棄物の専焼および災害廃棄物と除染廃棄物の混焼の灰における $^{90}\text{Sr}$ の飛灰濃度/主灰濃度の比は安定Srの値とほぼ同じであることが確認された。また焼却飛灰からの $^{90}\text{Sr}$ の溶出率は4.9～16%であり、安定Srの溶出率と比べると低い、ゼロではないことが確認された。

キーワード：ストロンチウム90、廃棄物、焼却飛灰、溶出率

2024年3月18日受付 2024年8月29日受理

\*Corresponding author: Email: yui.kazuko@nies.go.jp

<sup>1</sup> 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域 (〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2)

<sup>†</sup> 現所属：国立文化財機構文化財防災センター (〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43)